

テスラさんはイタズラ
したい！

じゅっぴー

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これはコンパスハウスでテスラさんが他のキャラ達にイタズラをする話です！

目次

その1 最初のターゲットはルチアーノ

1

V o i d o l l へのイタズラの成果報告

その1

5

その1最初のターゲットはルチアーノ

テスラ「バトアリで罠使って妨害するのもいいけどやっぱり人の驚いた顔を見たいんだよな」

と天才発明家であるテスラは考えていたそこに

V o i d o o l l e r「ナラトクベツニココデモカードノシヨウヲキョカシマシヨウカ？」

とこのコンパスというシステムの管理人ロボV o i d o o l l e rが言うと

テスラ「うーんそれはありがたいけどやっぱり僕の発明で驚かせたいな」

と返すとV o i d o o l l e rはソウデスカナンカヒツヨウナモノアレバイツテクダサイネと言ひ残しその場を去った

テスラ「さてとまずはターゲットを探さなきゃね」

といいイタズラターゲットを探していたらリビングに1人の男がいたテスラはその男にバレないように隠れて見ていた

ルチアーノ「銃が壊れた…これでは仕事どころかバトルもできないではないか（…）」

と殺し屋のルチアーノが柄にもなく泣きながらこぼしていたのであったそれを見た

テスラは

テスラ「そうだこういう時こそ僕の発明の出番だねと」ニヤニヤしながらとある場所に向かった

V o i d o o l l 「オヤ？テスラサンナニカゴヨウデスカ？」

テスラ「うんルチアーノの銃の設計図ってある？」

V o i d o o l l 「モチロンアリマスヨイマカラダシマスネ」

と言つてV o i d o o l l はコンピュータを操作し1本のUSBメモリを取り出した

V o i d o o l l 「コレガルチアーノサンノジユウノセツケイズデスドウゾ」

テスラ「ありがとうV o i d o o l l ！」

V o i d o o l l 「イエイエソレヨリモドウヤライタズラノターゲットハミツカッタヨ

ウデスネ」

とV o i d o o l l はなんか笑顔？で言う

テスラ「うんまあ今回はイタズラ兼手助けだけどね」

V o i d o o l l 「フフフソウデスカワタシモソノセイカキナリマス」

テスラ「終わったら教えてあげる」

V o i d o o l l 「タノシミニシテイマス」

と言つてる間にテスラはもういなくなった

Voidooll「ニンゲンハイタズラガスキデータコウシンシトキマシヨウ」

テスラ「よしまずはルチアーノの銃をこれの通りに作って」

テスラ「完成！」

その間なんと30分ははいはいぞいくらなんでもはやすぎる↑主が作るのが下手なだけである

テスラ「(*ΦωΦ)フッフ…ここからが本番だ！」

とイタズラの部分も完成させルチアーノの所へ向かった

ルチアーノ「ああ妻よわたしはもうどうしたら良いのだ仕事もなくバトルにも行けない私に存在価値はあるのか(;;;)」とまだ泣いていたというより悪化している

テスラ「ルチアーノプレゼントあるんだけど受け取ってくれる？」

ルチアーノ「私にプレゼント？今日はなんかあったか？(;;;)」

テスラ「ううん今日は何も無いよ」

ルチアーノ「なら何故私にプレゼントを？(;;;)」

テスラ「それはねルチアーノが散々泣いてるから銃を作ったんだー」(おそらく泣いていたの3時間である)

ルチアーノ「?!それは本当か！」

ルチアーノはさつきまで泣いていたのが嘘かのように泣き止んだ

テスラ「はいこれ」

ルチアーノ「おおこれはわたしが使い慣れてるやつだなありがとう感謝する」

テスラ「たまには人の助けになるイタズラもいいかな?と思つてね想定以上に喜んでくれて嬉しいよ」

ルチアーノ「そうか本当にありがとうとおそろくお前がくれなかつたら妻の元に走つていたかもしれない」

テスラ「本当にそうならなくてよかつた(?!▽?!;)」

ルチアーノ「新しい銃を早速試しに行つてくる」

テスラ「行つてらっしゃいなんか不備とかあつたら言つてね?」

ルチアーノ「ああ本当にありがとう」

テスラ「(まあ今回はいいイタズラしたかな?)」

Voidollへのイタズラの成果報告その1

Voidoll「テスラサンオハナシガアリマス」

テスラ「何かな？Voidoll」

とVoidollの呼びかけにテスラは応じた

Voidoll「センジツアナタガヤツタイタズラカノセイカヲオシエテクダサイ」

テスラ「あーそういえば終わったら教えてって言ってたね」と返すとVoidollは

Voidoll「モシカシテテスラサンワスレテマシタカ？」

テスラ「そ、そんなわけではないよ」

(嘘であるこの男の娘完全にルチアーンからのお礼で浮かれていたのだ)

Voidoll「ソウデスカナラオシエテクダサイ」

テスラ「いいよ」

テスラ「今回のターゲットはルチアーンだったよ」

Voidoll「ナルホドダカラセンジツワタシノトコロニセツケイズヲモライニキ
タノデスネ」

テスラ「そういうこと要は人助けに近いイタズラだね」

Voidoll「タシカニテスラサンガセツケイズトリニキテソノイチジカンゴニルチアーノサンガウレシソウニバトルシテタノハソウイウコトデシタカサイキンミカケテナカツタノデシンパイハシテマシタ」

テスラ「Voidollルチアーノの銃壊れてたらしいよ？」

Voidoll「カピツソウダツタンデスカ！カンリニントモアルコノワタシガキツカナインテフカクデスネ」

テスラ「そうなんだよまあ少し表情暗くしてただけだからねー」（嘘であるテスラはルチアーノが少なくとも3時間は泣いていることを知っている）

Voidoll「ナルホドソレデジユウノセツケイズノデバンデシタカ」

テスラ「そういうこと（*☒☒*）？グッ！」

Voidoll「ソレハイイイイタズラデシタネ」

と話していたら話題のルチアーノが来た

ルチアーノ「どうしたのかわたしの話をしているようだったが」

Voidoll「テスラサンガシタイタズラノセイカヲキイテイマス」

ルチアーノ「あの銃かとても使いやすい何より威力が上がってないとはいえ以前より制度がしっかりしている」

テスラ「うんルチアアノの銃に仕込んだイタズラはまさにそこルチアアノが壊れた銃使ってたから攻撃力上がらない程度に強化したら制度しかなかった」

Voidooll「ナルホドダカラルチアアノサンノステータスヘンカシテナイノニツヨクナツタトオモエタノデスネ」

ルチアアノ「わたしがバトル行つた時確かVoidooll敵側にいたもんな」

テスラ「後さルチアアノやつぱりこれは受け取れない」と前回ルチアアノからお礼として高額を受け取っていたがテスラはあくまでもイタズラとしてやったのだ受け取るわけがない

ルチアアノ「ふふお前は何か勘違いをしているな？」

テスラ「どういうこと？」

(ナレーターでも言ってることがわからない)

ルチアアノ「お前はイタズラとしてわたしに新しい銃を作りそれをくれたのだがそれが無ければわたしは今ここにいない要はわたしからのこんな優しいイタズラしてくれてありがとうと言うお礼の額だ受け取ってくれ」

Voidooll「ルチアアノサンガコウオツシヤツテルノデスカラウケトツテモヨイカト」

テスラ「わかったありがたく受け取らせてもらおうよ」

ルチアーノ「ではわたしはバトルに行ってくる」

テスラ「行つてらっしゃい」

Voidoll「イタズラハダイセイコウデスネ」

テスラ「うん成功してよかった」

Voidoll「フフフデハワタシハカンリニンノシゴトニモドリマスネ」

テスラ「はいまたイタズラする時頼るね」

Voidoll「フフフオマチシテマスヨ」

というやり取りを影からとある3人組が見ていた

マルコス「テスラもあんなイタズラするんだね」

リリカ「リリカとっても感動した」

ルルカ「ええ感動はしたけどマルコス君リリカから離れてね？」

マルコス「はいすいませんでした」

リリカ「うーんマルコス君近くについて欲しいな」

マルコス、ルルカ「リリカ（ちゃん）！」

リリカ「ダメかな？（；；）」

ルルカ「えつとそんなことないわよ」

マルコス「僕も近くに居ていいなら居たいな」

リリカ「やったリリカ嬉しい！」

(嘘である実はこのリリカはルルカのリリカへの執着以上にマルコスへの執着がすごいのだ)